障がいのある人とその家族が
地域の中で尊厳を保ちながら
普通の暮らしが出来るよう支援する

NEWS

社会福祉法人
京都障害者福祉センター

3月号
No. 221 R4/3/1
編集：支援センター
発行：本部事務局
http://www.kyofc.or.jp

～新型コロナウイルス～まん延防止等重点措置適用中～

年明けとともに到来した新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」による流行「第６波」では、京都市において２月９日に過去最高の 2,112 名の新規感染者が確認されました。

先週（2/20～2/26）の累計は 6,621 名と前週から約 2,100 名減少しましたが、第５波のピーク時(2,475 名)と比べると約 2.7 倍。減少スピードも遅く、高止まりの状況が継続しております。

３月６日まで延長された京都府下全域に適用されているまん延防止等重点措置も、更なる期限延長を視野に検討が進められています。

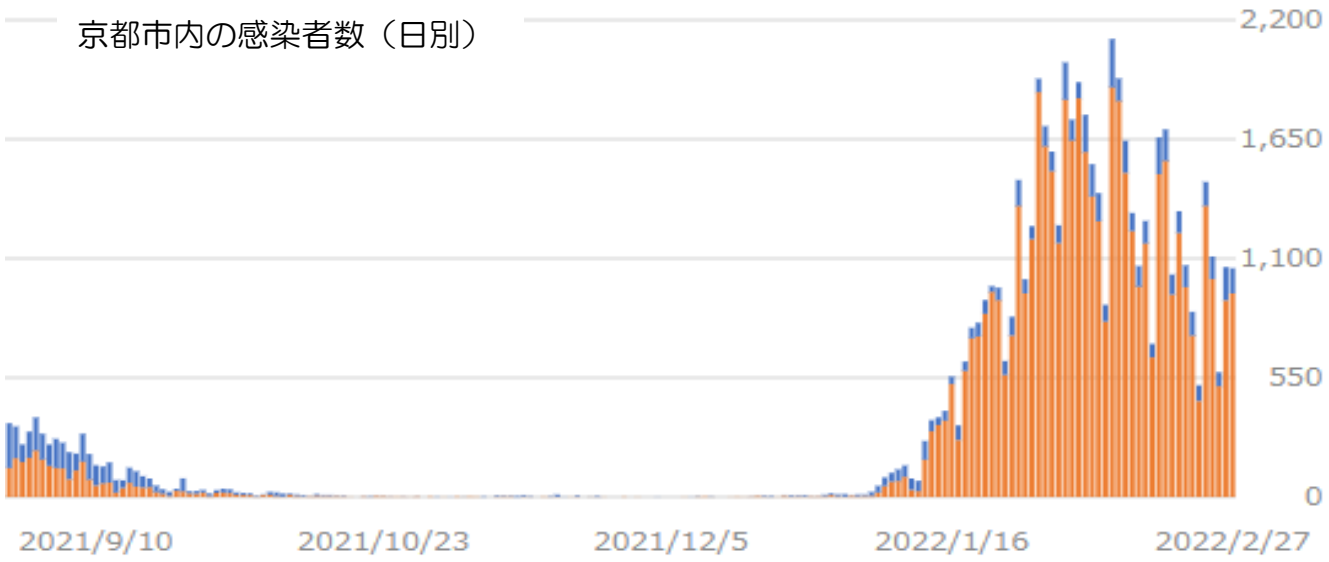
当法人の施設では、職員、職員の家族、利用者及び利用者の家族で、ＰＣＲ検査を受けられる事例が先月２月は３１件（１月：２５件）あり、累計で１９７件となりました。

内陽性者が発生した事例が１３件、感染拡大防止のために通所自粛や一時休所を余儀なくされた事例が１６件あり、利用者さんやご家族、関係機関の皆様に多大なご迷惑、ご心配をお掛けすることになりました。

先月はまさにオミクロン株の感染力の脅威を痛感した１箇月となりました。

加えて、更に感染力が強いとされるオミクロン株の派生型 BA・２も確認されており、予断を許さない状況が継続しております。

職員の皆さんにおかれましては、引き続き、マスク、手洗い、距離確保、密の回避、こまめで十分な換気など、日々の感染対策、利用者、職員の健康状態の把握など基本的な対策の徹底をお願いします。



（本部事務局）

洛南エリアTOPICS　【洛南デイあすなろ】

あすなろを彩る作品たち

あすなろの日中プログラムの一つに創作活動があります。アイデアを出すのは主に職員ですが、利用者さんの手によって個性豊かな作品が誕生します。利用者さんによっては指先や腕が動かしにくくお一人で行うには難しい場面もありますが、動かしやすい位置に道具を配置したり、職員が補助を行ったりと少しの工夫で色塗りやのり付け、シール貼りなどできることの幅が広がっています。

皆さんの得意なことや出来ることを役割分担して完成した作品達は窓や壁、更には天井などあすなろの至る所に展示され、デイルーム内が華やかになり皆の目を楽しませてくれています。

作品は季節感を取り入れたものが多く、季節によってあすなろの風景も様変わりします。これから春を迎えるにあたり、現在は春をテーマとした創作に取り組んでいます。「ここはどんな色にしよう？」「こんな感じでいいかな？」「これ私が切ろうか？」と皆で協力して作る作品はきっと素敵なものになるでしょう。コロナ禍において特別な行事は制限されておりますが、このような日常の活動にも楽しさやワクワクを感じて頂けるように工夫していきたいです。

（洛南障害者デイサービスセンター「あすなろ」：近藤　加菜子）

伏見エリアTOPICS　【伏見障害者授産所】

出張ヘアーカットで皆さんさっぱりされました

伏見授産所では 2017 年度から２か月に１回の割合で出張散髪を実施しています。

五条河原町でヘアスペース TAKE を営んでおられる中田さんに来ていただき多い時では 16 名、２日に分けて実施しています。実はこの中田さん、以前授産所にいた職員の父親にあたる方で最初は冗談で「お父さん、髪切りに来てくれへん？」と言っていたのが実現して５年が経過しました。

何より利用者さんがとても喜んで下さり「授産に通所している時間にカットしてもらえるのでヘルパーさんのことや時間を気にせずに過ごせるのでとても快適です。」「椅子に乗り移らずに車いすのままでもカットして頂けるのでとてもやりやすいです。」「髪型もどんな要望でも聞いて頂けるのでカットする日をいつも楽しみに待っています。」と言って頂いています。

中田さんはお店が休みの日（月・火）にわざわざ来ていただいているのですが、他の施設からも要望があればいつでも伺いますと言って頂いています。

ご関心のある方は伏見授産所までお問い合わせ下さい。

（京都市伏見障害者授産所：安藤　武）

山科エリアTOPICS　　【京都ラクシヨーネ】

京都ラクシヨーネに新たな車両が仲間入り！！

福祉有償運送で使用している２台のハイエースはどちらも約２０年前の車両で老朽化が進んでおり、後継の車両が必要となっていましたが、今年度、京都府の福祉有償運送支援事業費補助金により、待望の新車を購入することができました。

福祉有償運送　京都ラクシヨーネは移動に困りを抱える人の地域での生活を支援しようと５年前に３台の車両で事業を開始しました。口コミで利用者が増え、今年度も約８０名の新規登録者があり、総会員数は５００名を超え、地域の障がいのある方や要介護の方の移動に欠かせない足として定着してきています。

コロナの影響で２年前と比べると年間で１，０００件程度利用が減ってはいますが、家族と同居していてもベッドからの離床すら困難なケースや、医療的ケアを必要とする乳幼児の利用も増えてきており、通院や通所、外出などで今年度も年間で約４，６００件、７，５００人程度の利用が見込まれています。

地域には公共交通を利用することのできない方々が数多く暮らしておられ、その生活は苦労の連続です。そして、その出会いの中で学ばせていただくこともたくさんあります。「ほんま助かるわ」という利用者の言葉を糧に、これからも地域の方々とのつながりを拡げ、福祉の視点から地域に必要なサービスを考え、その創出と拡充を図っていきたいと思います。

（福祉有償運送　京都ラクシヨーネ：松原直之）

災害時の支援　Part２　～東部圏域の取り組み～

前回の法人ニュース「災害時の支援」で、らくなん大塚主任から中部自立支援協議会（上京区・中京区・下京区・南区）について触れていただきました。

東部自立支援協議会の専門部会の一つに、災害部会があります。

元々は自然災害を想定して、地域にお住いの障害のある方の避難先、福祉施設の備蓄状況の把握、災害マニュアルの作成などについて災害部会で情報共有、検討を重ねていました。

東部圏域の支援センター、からしだねセンター（地下鉄小野駅そば）が、災害時に外部の災害援助団体と協働し、災害初期に被災現場に入り被災された方の支援を法人として取り組まれています。その報告の中で、当法人の皆さまと共有したいと感じたところが以下の３点です。

・行政や社協は機能しなくなる。行政や社協の人たちも被災者でありながら、懸命に目の前にある課題に向かうのに精一杯。　→公的な支援だけを頼るのはどうか。

・被災地の福祉施設に連絡をいれ、困りはないか、外部から援助ができると伝えても「大丈夫です」と言われる。　→外部からの援助を受け入れる力　⇒受援力がない。

・被災者たちが、近くに住んでいる人たちの状況（どこに何が足りないか、この人・この家族はおそらく困りがある人たちだなど）をよく把握している関係性の中では、自然な支えあいができていて、外部からの援助も受け入れが良好。　⇒日常での支え合いができていて、受援力もある。

受援力とは　＝　「助けて」と言える力

コロナ禍を災害と捉え、まずは圏域の事業所の横のつながりを強くし、災害時に自然と連絡を取り合えるような関係性（＝「助けて」「ちょっと大変やねん」が言える）を作っていくことが急務でないかと、災害部会の中で議論され、先月の自立支援協議会運営会議の中で拡大災害部会を開催し、協議会全体で災害時の事業所間のつながりの必要性、イメージ図を共有したところです。

災害時に自分の所属する事業所を守ることが大事ですし、私たち自身も被災する可能性はあります。その中でとなり近所の事業所の事まで考えられるのか、と言われると必ずできるとは言い切れませんが、気にかけるだけでも救われる命があると、からしだねセンターの取り組みから学ばせていただきました。

法人内はもちろん、他法人、近くの事業所などに自然と連絡が取れる関係性を、日々の業務の中で心掛けているだけでも、非常時に救われる方が一人でも増えるのではないでしょうか。

災害部会の今後の動きについては、また法人ニュースで報告、共有させていただきます。

（京都市東部障害者地域生活支援センター「らくとう」：　山下　笑子）

京都市内における新型コロナウイルス感染症の相談窓口について

陽性者及びその家族等

新型コロナウイルス感染症検査で陽性となった自宅療養者及びその同居家族等

重症化リスクの高い方 → **京都市保健所**

重症者等への対策に重点

重症化リスクの高い方へのフォローアップ

無症状者軽症者 → **新設 京都市新型コロナ陽性者臨時フォローアップセンター**

軽症者等のアクセスポイント

○症状に関する相談

○自ら検査を実施し，陽性となった方の相談
○待機解除の相談　など

陽性者以外の方

発熱等の症状があり，新型コロナウイルス感染症に罹患している恐れがある方（陽性者及びその家族以外）等

→ **きょうと新型コロナ医療相談センター**

発熱等の症状があり，かかりつけ医や身近に医療機関受診ができない方

新型コロナウイルス感染症に関する一般的な相談等